

# 名寄市立名寄小学校

指定年度：H24～  
児童数：203名

## 1 包括的な学校改善に向けた取組の概要

教育にとって「子どもの成長や変容の実感」は不可欠である。そのためには、「当たり前なこと」を的確に実践することが大切である。

以下の取組は、まさに「当たり前なこと」であるが、その質を一層高めることが本校の課題と捉え、重点化して実践を重ねてきた。

### ① 教育理念や経営方針の浸透

- 学校の経営ビジョンを明確かつ、シンプルにすることにより、児童や教職員、保護者への浸透度が高まるよう工夫した。
- 学校経営の両輪である学級経営及び分掌経営における毎月の改善プランの立案と反省により、それぞれの業務の見える化を行い、組織力の強化を推進した。
- 毎週月曜日発行の「校長つばやき通信」を通して、校長の思いや労いの言葉により教職員のモチベーションアップを図った。

### ② 協働意識の高揚

- 学校における働き方改革の意識を高めることにより、業務改善や時間外勤務縮減を通して、教育の質の向上を図った。具体策は以下の通り。

日課の変更、データの共有、諸会議の削減、宿題・家庭学習の簡素化、リフレッシュデーの設定、週休日の学校業務の回避等

- 全員主役のワークショップ及び、「アフター」を重視した日常授業直結型の校内研修を継続し、授業改善を推進した。
- 教務部発行の「名小感染症対策パッケージ」をもとに、危機感を共有し、学校全体で統一した「感染症対策」と「学びの保障」の両立を図った。

### ③ コミュニケーションの確立

- 毎日の授業参観後の感想など、職員室での声かけや毎月の改善プランを活用した面談により、教職員とのコミュニケーションを確立した。
- 教頭を中心にメンタルヘルスを意識した風通しのよい明るい職員室の風土を構築した。

(毎月の改善プランによる組織力の強化)



(授業改善研修会)

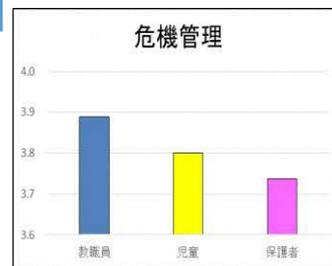
## 2 取組の成果と課題 (□：成果 ■：課題)

□ グランドデザインや危機管理の取組を明確にすることで経営方針の浸透度及び危機意識の高まりが見られた。(右記はアンケート結果)

□ 毎月の改善プランの立案及び反省を活用した具体的な指導と称賛により、教職員のモチベーションを高めることができた。

■ 学校における働き方改革において、教職員自らが考案した改善策の策定により、時間外勤務縮減等の成果が見られたが、個人差が大きい。(11月の時間外勤務時間集計の平均：45時間15分)

■ 学力向上に関して、今後も下位層の底上げに重点をおき、習熟度別少人数指導や補充学習(ヒルスタ)等の取組の質を上げる。(児童アンケート：授業が分かりやすい98%)



(危機管理意識の高まり)

【アドバイザーから】 北海道教育大学 学校臨床准教授 山中 謙司 氏

個別最適な学びが求められる中、本校では子どもの学習状況に応じた支援内容を学習指導案に明記したり、授業後に改善案を協議したりすることを通して、授業改善の成果を全教職員で共有しています。本校の取組は、これからの学びの保障の在り方として学ぶべき事例と言えます。